

議事録	会議名	
	第3回 駒込中学校の建て替え等を考える会	
議 題	1	開会
	2	仮校舎整備について
	3	アンケート調査について
	4	先進事例視察について
	5	「未来思考でみんなの学校を考える」について
	6	その他
日 時	令和7年8月26日（月） 18：30～20：00	
場 所	駒込中学校 体育館	
出席者数	小川文幸会長（駒込中学校 PTA 会長）、他委員 17 名 傍聴人 4 名 事務局 コンサルタント（5 名） 区職員（4 名）	
会 議 内 容（要 旨）		
<会の概要> 1. 開会 2. 仮校舎整備について 3. アンケート調査について 4. 先進事例視察について 5. 「未来思考でみんなの学校を考える」について 6. その他（次回日程案）について <仮校舎整備について（資料 1-1、資料 1-2）> ● 事務局から旧駒込フラット用地に整備する仮校舎について、及び、駒込地区仮校舎整備に伴う旧駒込フラット解体工事説明会についての説明をした。 <アンケート調査について（資料 2）> ● 事務局からアンケート調査の概要を説明した。 <先進事例視察について（資料 3）> ● 事務局から先進事例学校視察の概要を説明した。 〈質問〉 先進事例はどのような観点で選択しているか。 〈回答〉 令和に入ってから改築校を選定している。最新の学習環境が整っている学校を視察いただきたい。田端中は駒込中同様、敷地面積が狭いので参考になると考える。		

〈質問〉

町会で回覧する紙様式のアンケート調査票にも、LoGo フォームは掲載するのか。

〈回答〉

掲載する。

＜「未来思考でみんなの学校を考える」について（資料 4-1、資料 4-2）＞

- 長澤悟氏（東洋大学名誉教授、株式会社教育環境研究所理事長）から、「未来思考でみんなの学校を考える」をテーマにご講演いただいた後、講演内容に対する質問や印象に残ったことを述べあう意見交換を行った。

〈質問・意見内容〉

- ・ 学校がここまで開かれた空間にでき、自由に設計できるということがわかった。地域に愛される学校にしていきたい。
- ・ 学校に生徒が思い思いに過ごせる居場所があることが大切だと思う。生徒たちもホームに戻るような気持ちが必要で **Well-being** の考え方は重要だと思った。
- ・ 今後の検討に向けてわくわくしてきた。教員のフリースペースのような（フリーアドレスの）空間はとても良いと思った。地域連携の事例で、中学生の居場所として夕方から夜まで学校スペースを使用できるお話があったが、そのようなことができたらいいなと思った。
- ・ 学校と地域施設を併設した事例があった。自分たちも学校にある程度自由に出入りできるスペースがほしい思いがあるのだが、行政は管理者を置いて決まった時間にしか出入りできないという考えのようである。また前回の話だが、コンサルタントから学校が 10~50 cm の浸水の可能性があるといった説明があった。どこを根拠としているのか知りたい。
- ・ 周辺の道路幅員が狭いので、防災拠点としての機能をどれだけもたせることができるかが気になった。
- ・ 「未来思考」という発想は素敵だと思った。自分たちが中学生だった時に当たり前だった学校の姿が、今の学校では変わってきている。そう思うと、今の考え方で検討を進めるのではなく、50 年後、100 年後の先を見据えて学校のあり方を検討していないといけないと感じた。
- ・ 靴のまま学校に出入りできる学校もあるようだが、最近の学校のトレンドなのか。昔の学校のスタイルが根付いているため新しい発想だなと思ったが、今のいろいろな学校を知ることができ、自分もこのような学校で学んでみたいと思った。
- ・ これからの学校は、教室の扉がなかったり廊下に図書館があったりと、開かれたスペースが増えてくるのだろうというイメージをもった。
- ・ ロッカーが廊下にあるなどの工夫があったり、オープンスペースがあるのはよいと思った。今は、オープンスペースで勉強したり、談話したり姿が当たり前に見られる時代であり、より工夫した空間づくりが重要になってくるのだろうと思った。
- ・ 様々な事例の紹介をしていただいたが、長澤先生もこれが「正解」ということではな

いとおっしゃっていたように、地域ごとで話し合いを重ねて、計画をまとめていったのだろうと思った。新しい学校で新たな空間を作る場合、例えばこのような新しい設備やこのようなオープンスペースを導入しようと決めていった経緯や、背景になった考え方を知りたいと思った。また、そういった新しい設備や空間が導入されたことで実際にその学校に通う生徒たちにどのような変化があったか（特に学力面で）などが知りたいと思った。

- ・ 自分の概念にはなかった画期的な学校の事例が出てきた。心配なのは、オープンスペースが多いことで構造的にどうなのだろうかということや、災害時は機能するのだろうかということも気になった。そういった視点も考えながら今後検討をしていきたい。また、学校は学ぶ場所であることは当然だが、部活動などの利用をどう充実できるかも考えたい。体育館の周りを走ることができることは大切だと思ったし、自分たちの時代は、雨天時や休み時間は体育館が取り合いだった。雨天時に室内を立体的に利用できることは良いことだと感じた。一番印象的なのは、大きな階段が椅子になり、学校で発表会をしたりするホールのような空間になるというのは素晴らしいと思った。このようなオープンスペースは災害時にも活きると思った。
- ・ 現在の教室は正面に黒板があるということが当たり前ではないということなど、様々な発想があるということを知った。これからの取組みがとてものしみにになった。
- ・ 駒込小、駒込中に昭和の時代に通っていたが、令和の時代の学校はこうなんだと驚いている。田端中学校が同じくらいの敷地面積と聞いたので、ぜひ参考にできればと思う
- ・ いろいろな可能性を追求できるのだと思ったと同時に、実現しようとする予算がかかってしまうという心配もある。なんとかこの新たな学校づくりと予算面の確保を両立できるとよいなと思った。
- ・ 講演を聞いて、「現在の駒込中のここがこうなったら」「教室がこうなるといいな」というイメージが浮かんできた。これからの考える会で意見を出していきたい。
- ・ 生徒が楽しく過ごせて、自慢できる学校になったらよいと思うと同時に、防災拠点として災害に強い学校、ライフラインが停まらない学校が望ましいと感じている。最近は避難が長期化することも多いので、学校と避難所が同時に運営できるようになると良いと考えている。防災拠点としての機能と、従来の学校機能が共存できるとよいなと思った。

〈長澤氏から〉

- ・ 沢山の事例紹介をしたが、そのひとつひとつの学校の地域や学校の先生たちが様々な意見を出し、時に反対の意見や心配ごとなどの意見を出し合い、それらを乗り越えて、皆で自分ごととして話し合いを重ねて取り組んだということである。オープンスペースは、学校に通う子どもたちにとってゆとりが感じられる場所であるが、ただ開かれてオープンであればよいということではなく、時に包まれているような空間がよいということもある。学校の先生にとっても、このような教育、学習展開をしたいという思いや考え方をどう空間づくりに落とし込んでいくのかをそれぞれの要件や面積等に応じて工夫をし、いろいろなアイデアを出していき実現できている。

オープンスペースは、決して特別なことではなく、いかに学校にとって、地域にとってよい場所、空間にできるかを、自分のこととして考えた結果であろう。

- ・ 防災の考え方は学校には外せないと思う。根っこのところに安全と環境があるが、本日は、学校にとっても防災は大事なテーマであること、そしてそれをこれから議論していこうと共有できたことが素晴らしいことである。
- ・ 学校と地域の施設を一緒にすることは、建築的には不可能なことではない。ただ地域としても、施設として自分たちの場所として使わせてもらう、自分たちの場所として足を運ぶということは、ある部分、自分たちで管理にどう関わるとか、管理をどのように考えていくのかということがとても重要になってくるだろう。そういうことを学校と地域が一緒に考えた上で、実現に向けて動いていけることなのだと思う。

以上

次回日程	先進事例視察 10月8日（水）豊島区立巣鴨北中学校 10月9日（木）北区立田端中学校 第4回考える会 11月20日（木）駒込中学校
------	---